

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：13103

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2014～2017

課題番号：26285199

研究課題名（和文）教科教育と教科専門を架橋する社会科内容構成に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Basic study on the content composition of social studies mediating subject education and subject specialities

研究代表者

松田 慎也（Matsuda, Shinya）

上越教育大学・大学院学校教育研究科・特任教授

研究者番号：70143336

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,300,000 円

研究成果の概要（和文）：社会科の教科内容の体系的構成を提案した。従来、地理・歴史・公民の3分野で成り立っている社会科の教科内容を「存在」の次元と「価値」の次元とに区別し、存在の次元における「空間系」と「時間系」とを区別したうえで、空間・時間的存在の次元と、人格および公共善にかかわる価値次元との相互関係のうえに教科の内容の体系的構成するという構想を提案し、このような概念構成に基づいて教科内容を深く理解し、子どもの「よりよく生きる」力を育み、社会参加への実践を促すという基本的方向性を示した。その上で本研究ではこのような教科内容の体系に立脚して具体的事例に即した教材研究・開発をおこなった。

研究成果の概要（英文）：Our study proposed a systematic construction of subject content of social studies. A new concept holds that the thematic content of social studies, which is still compiled from the fields of geography, history, and education of citizenship, differs in two dimensions, i.e., "existence" and "value." The dimension of "existence" further differs into two forms of social phenomena, "spatial systems" and "temporary systems." We propose a theory for the systematic construction of the subject content of social studies based on the interrelationship between temporal and spatial forms and value, for promoting both individual and common good. Our study identified the primary trajectories for promoting children's personal abilities to "live better" and encouraging participation in public life. By following this system, of the construction of subject content in social studies, we examined the use of educational materials in specific cases.

研究分野：宗教教育、宗教学、社会科教育、仏教学

キーワード：教科内容構成学 教科内容 体系化 地理教育 歴史教育 公民教育 教科専門 思考力

1. 研究開始当初の背景

日本の教育の在り方を再考するうえで、現代社会におけるグローバル化の進展と、それに対応する知識基盤社会の形成という現代的課題に対応するかたちで日本の学校教育の在り方の見直しの必要性が指摘されて久しい(加藤 2000)。その際、特に強調されてきたのが、次世代をになう子どもの「学力」の育成に直接的にかかわっているそれぞれの「教科の内容」の在り方を再検討するという課題であり、具体的には、教員養成大学・学部での「教科専門」科目の教育内容を再吟味・再構築するという課題である(西園・増井 2009)。このような課題が提起された背景として指摘されてきたのが、教員養成課程での教科専門教員による授業内容が、一般大学の専門諸学部・諸学科での学術的分類によって細分化された個別諸科学の専門性に依拠してきたために、教科専門の授業内容が小中高の学校現場での児童・生徒の基礎的学力および理解能力の育成という課題に応えるものであるのかどうかという点である。すでに文部科学省は、教員養成大学・学部において「一般学部とは異なる教科専門科目の在り方についての研究が、より推進されること」が期待されており、「子どもたちの発達段階に応じ、興味や関心を引き出す授業を展開していく能力の育成」としての「教科専門の専門性」の解明が課題であると指摘している(文部科学省高等教育局裁定 2001)。これらの課題を真摯に受けとめるかたちで、これまでいくつかの教員養成大学・学部では、さまざまな調査・開発研究が展開されてきた。この課題に先導的に取り組んできた研究者のひとりである西園芳信は、「教科専門と教職専門とを架橋する新たな領域をつくることではなく、現在の教科専門の科目を教育実践の観点から捉え教員養成の『教科内容学』として構築すること」が重要であるという立場を打ち出し、新たに教育実践の観点から「教科内容学」を構築するという課題を提起した(西園 2013)。こうした方向性に立脚して「日本教科内容学会」が発足し、現在にいたるまで活発な研究を展開し、各教科の教科内容の「体系的」が焦点化されている(西園 2016)。他方、こうした教科専門の在り方の見直しという取り組みと並んで教員養成課程におけるそれぞれの教科にかんしてカリキュラムの内容を担っている教科専門と教科教員の教員同士の相互関係の再構築という課題、お互いがどのような協力関係を取り結ぶべきなのかという課題が切実な問題となっている。こうした諸課題に応えるかたちで、上越教育大学の社会科研究グループでは、教科専門と教科教育の双方の研究者が緊密に連携するなかで、これまで個別分野における両者の協働の在り方を模索してきた(浅倉 2002; 小島 2012; 志村・堀健 2017)。さらにその一環として、上越教育大学の研究グループは、

に教科専門と教科教育を架橋する新しい教育研究領域としての「教科内容学」の構築という課題設定のもとで、シラバス案を含む具体的な「社会科内容学」構成案を提案した(下里ほか 2011)。その際、重視されたのは、従来の教科専門を人文・社会系専門諸科学の最新の成果と方法に立脚することで、「社会科」の教科専門の在り方を統合的に再構成するという課題、いいかえれば、個々の教科専門に対するメタ次元における新たな教育研究領域として「社会科内容学」を固有の認識論に立脚して理論的に開発するという課題であった。このことは、教員養成課程における教科専門の研究者が、学術的(アカデミック)な分類にもとづく教科専門に固有の内在的論理を発展させるかたちで自己の教育研究内容を子どもの現実と現代的課題に対して積極的に対応させることによって自律的に自己改革・自己改造することを意味している。いいかえれば、個別諸科学の専門的研究者が、教科教育の専門家との協働作業のなかで、グローバル化時代の知識基盤社会の構築という新たな国民的要請に応えることができるような、子どもたちのより総合的で実際の学力の育成という高次の目的の観点から、自己の個別の専門性をメタ次元で再定義し、自ら「社会科」という総合的な知識の学問的統合(構造化・体系化)の課題を担うことを意味している。このような課題意識にもとづいて、この研究グループは、「社会科」の理論的内容を構成するべき、過去と現在の「社会的現実」を認識するための中心概念、未来において構想・実現されるべき「社会的価値・理念・規範」(子どもの関心・意欲・態度における志向対象としての)にかかわる中心概念、そして、これら現実認識と理念的志向との相互関係と両者の統合(すなわち生活実践)のあり方を「社会科の教科内容の構成原理」の問題として解明し、それらに立脚して教員養成大学の授業内容を開発するという本研究課題を設定した。

参照文献: 浅倉有子編(2002)『歴史表象としての東アジア 歴史研究と歴史教育との対話』清文堂。加藤章編(2000)『21世紀地球社会と教師教育ビジョン』教育開発研究所。国立教員養成大学・学部,大学院,附属学校の改革に関する有識者会議(2017)「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて -国立教員養成大学・学部,大学院,附属学校の改革に関する有識者会議報告書」。小島伸之編(2012)『平成 22-23 年度上越教育大学研究プロジェクト「近現代社会の基本的価値に関する社会科教材開発」報告書』上越教育大学。志村喬・堀健志編(2017):『教科内容・教科教育・教育実践を横断した PCK (Pedagogical Content Knowledge) 研究による教師の専門職的力量の構造の解

明：平成 27～28(2015～2016)年度上越教育大学研究プロジェクト報告書』上越教育大学。下里俊行・梅津正美・中村哲・志村喬(2011)『『社会科内容学』構成案』『平成 22 23 年度文部科学省先導的の大学改革委託事業研究成果報告書 教科専門と教科教育を架橋する教育研究領域に関する調査研究』上越教育大学。西園芳信・増井三夫編(2009)『教育実践から捉える教員養成のための教科内容学研究』風間書房。西園芳信(2013)『教育実践の観点から捉える教員養成としての『教科内容学』の考え方』『Synapse』24。西園芳信(2016)『各教科の教科内容の体系性の提案を』『日本教科内容学会誌』2-1, 2016。文部科学省高等教育局裁定(2001)『今後の国立の教員養成大学・学部の在り方について』。

2. 研究の目的

本研究は、21 世紀のグローバルな知識基盤社会の構築という国民的課題を念頭において、絶えず時代の変化の影響を受けている子どもの日常的現実を見すえながら、最新の人文・社会系専門諸科学の成果と方法に立脚して、教員養成大学における教科専門と教科教育を架橋するために「社会科の教科内容構成」の在り方に関する基礎的な調査と開発研究をおこなうことを目的とした。具体的には、「社会科」の理論的内容を構成する3つの側面、つまり、(1)社会認識にかかわる主要な理論的中心概念(地理的・歴史的・公民的諸概念)、(2)社会理念にかかわる主要な実践的中心概念(社会科における価値・規範概念)、そして、(3)両者の相互関係と統合・体系化の在り方(社会科の構成原理)を解明し、最終的には、(4)教員養成課程における新しい独立した教科専門の授業科目「社会科内容構成」の授業案・教材を開発することを目指した。

3. 研究の方法

(1)教科専門分野における国内外の先行研究の分析にもとづき国内の専門家に対する聞き取り調査をおこない、(2)各教科専門分野に即して海外の専門家に対する聞き取り調査をおこない、(3)各教科専門分野に即して小学校「社会科」の内容構成に関する構成原理案を作成した。(4)調査分析項目は以下の通り。 主要な教員養成大学・学部の教育課程での小学校「社会科」に関する免許科目授業シラバス等における地理的内容・歴史的内容・公民的内容の主要な概念の析出と、それらを小学校「社会科」の教科内容として統合する原理(社会科の目的と構成要素)の分析。

主要な教員養成大学・学部の教育課程での中学校「社会科」に関する免許科目授業シラバス等における地理的分野・歴史的分野・公民的分野の主要な概念の析出と、それらを中学校「社会科」の教科内容として統合する原理(社会科の目的と構成要素)の分析。 主要な教員養成大学・学部の教育課程での高校

「地歴科」「公民科」に関する免許科目授業シラバス等における地理的内容・歴史的内容・公民的内容の主要な概念の析出と、それらと中学校「社会科」の教科内容として統合する原理(社会科の目的と構成要素)との比較分析。以上を踏まえて小学校「社会科」、中学校「社会科」、高校「地歴科」「公民科」の教科内容と、教員養成大学・学部における教科専門科目を統合するための原理について考察した。

4. 研究成果

社会科の教科内容の体系的構成にむけて、従来、地理・歴史・公民の3分野で成り立っていた社会科を、どのような構成原理によって体系化したらよいのかについて一つの構想を提示した。そこでの要点は、教科内容を「存在」の次元と「価値」の次元とに区別し、存在の次元における「空間系」と「時間系」とを区別し、価値の次元での価値規準の枠組として人格と公共善を措定したうえで、それらの相互関係のうえに教科の内容の体系性を構成するという構想であり、それら存在および価値の次元の概念的認識を基盤にして、教科内容を深く理解し、子どもの「より良く生きる」力を育み、社会参加への実践を促すという基本的方向性を示した。

空間系の社会科の教科内容構成に関しては、教員養成系大学・学部における GIS 教育の内容について分析を行い、教員養成系においては過半数の大学・学部で GIS 教育が行われているものの、GIS 教育に割く授業時間数が少ないという現状が明らかになっており、また、教員養成系大学における授業実践の分析からは、GIS ソフトで主題図を作製することにより、社会系各分野の概念を総合的に用いた思考を促す可能性があるという示唆を得た。社会科的思考は、言葉(概念)や図表を通して、複雑な社会現象を「空間的に視覚化する」ことで、対象化・相対化するという特徴をもっていることを明らかにし、その意味で GIS の設計思想は、地理教育を超えて活用できる可能性を秘めていることを指摘した。防災教育における地理教育の役割に関して、防災・減災において重要となる知識理解の内容構成として、人と自然のかかわりとしての「災害」の科学的な理解、地域の特徴としての災害の理解、災害の歴史性の認識を指摘し、これらの内容を学習するうえで、社会科・地理の役割が大きいことを明らかにした。地域的観点を育成する授業案に関して、地理学における地域的観点を整理したうえで、上越教育大学・学校教育学部での授業例を踏まえて、どのように地誌学において地域的観点を身につけさせるかの授業実践例を分析した。

時間系の社会科の教科内容構成に関して、日本列島では大きな地震が頻発してお

り人々の地震に関する関心も高いという現状をふまえて、寛延4年(宝暦元年)の高田地震を素材に授業案を開発した。この授業案では、日本史を専攻していない学生にも比較的容易に理解できるように、家屋倒壊率を示した史料をベースに展開した。21世紀型の思考力を教員養成系大学という場でいかに育成すべきかという課題について、個別専門の研究者としての教員が、自己言及的に研究体験記述を教科内容学的に学知化して提示する作業が必要ではないかという視点から、研究分担者の個別専門である日本近現代史・地域社会史での「鎮守の森」をめぐる自身の研究体験について、歴史的思考力の発動を軸に、それを社会的思考力の体系性・理論性のもとで記述する試みを提示した。その結果、思考力の育成のためには内容知を授業に反映させるだけでは完結せず、そのうえでの定着過程としての「実習」的な過程が不可欠ではないかという示唆を得た。「世界史」の教科内容の構成の視座に関して、教員養成課程における社会科の教科内容の構成を研究するという課題を、教科専門の教員自身、教科専門を学ぶ学生自身、その学生が将来教えることになる子ども自身という三者関係を前提としてそれぞれの世代の時代的・地域的制約を考慮しつつ、学びつつ教える主体の自己組織化への動機を喚起するという課題として逆照射したうえで、研究分担者がたどった世界史像の形成過程および教科専門科目「世界史研究入門」の授業構成および教材研究の内容を言語化し、概念的に把握することを試みた。

価値次元の社会科の教科内容構成では、価値の次元を土台にして社会科の内容を構成するために「宗教とは何か」という問いを主題にして、この難問が、浜田広介の有名な童話『泣いた赤おに』によって簡単に読み解くことができることを示し、その読み解きを足場にして宗教への視点を広げることにより、社会科の内容に深みが加えられる可能性について検討した。また、教員養成大学における経済・経済学教育の目的を、経済学的な見方・考え方にもとづいた責任ある市民を育てるための能力を育成することであると、そのためには市場経済社会の仕組みの理解や合理的意思決定というスキルだけでなく、公的資質としての価値判断や倫理的問題を扱うとともに、隣接する学問分野のもつ固有の価値や考え方を比較的にとらえることが必要であるという観点から、上越教育大学での実践を通じて、これら内容を扱う方法としてゲーミング・シミュレーションの活用法について開発した。また、教員免許取得における必修科目とされている「日本国憲法」の講義に、教科や教職に関する観点だけでなく、「思考力」を育成する一般教育・リベラルアーツ(学芸)教育の観点を導入する試みを検討し、それを通じて教員養成課程における教科専門の役割や意義について考察した。

社会科教育学の観点から教科内容のあり方について、日本ではコンピテンシー重視のベクトルで教員養成改革が進んでいることを念頭において、同改革を先導してきた欧州教育界で知識を再評価する「知識への転回」が進みつつある事情を解明した。具体的には、2008年のM.ヤングの『知識を取り戻す』および国際カリキュラム学術誌『カリキュラムジャーナル』の2011年の「教科内容知識」特集号に代表されるこの潮流の中で、国際地理教育研究界ではA.センのケイパビリティ論をも援用した教科固有の知識論・教員養成論ならびに国際共同研究プロジェクトがイギリスを中核に展開しており、本研究課題は、これら国際研究動向と親和的であることを明らかにした。さらに、歴史教育における自国史と世界史を考察する前提として外国史の持つ意味を確認するために、戦前の小学校国定日本史教科書において外国史がいかなる役割を担ったのかを分析した結果、戦前の外国史は危険視されつつも、いかに日本史教育に組み込むべきかが議論されてきた一方で、教科書での外国史記述は日本史教育の強化に従って日本史への従属の度合いが増していったことを明らかにした。そのうえで、世界史とは峻別されたかたちでの外国史を使った歴史教育が存在しうることを今後の歴史教育を検討する際の前提とすべきであるという示唆が得られた。社会科教育における価値教育の規範的研究に関して、近年の日本では学びの質の転換にともなうコンピテンシー(資質・能力)の育成に重きをおく教育が目指されており、そこでは、子どもの価値観形成に関わる教育が想定されていることを念頭において、近年の社会科教育(公民教育)における価値教育の現状と課題を踏まえながら、子どもの価値観形成を目途とする社会科教育(公民教育)における価値教育の在り方について検討し、子どもの精神的自由の保障の観点から価値教育の必要性に言及するために法学での議論を参考にすべきであることを指摘した。

海外の研究者による専門的知識の提供としては、2017年6月21日、L.ボガトヴァ(ロシア・カザン連邦大学教授)「社会科の新しい教科内容構成のための社会哲学・ジェンダー研究・生命倫理」(上越教育大学)など、サンクトペテルブルク国立大学(ロシア)、カザフスタン国立大学(カザフスタン)、ナイロビ大学(ケニア)、カレル大学(チェコ)、ブルノ工科大学(チェコ)、ヘルシンキ大学(フィンランド)、アイルランド国立大学(アイルランド)、アメリカ地理学会(合衆国)の研究者からレビューを受けて研究内容について検証し、次のことが明らかにした。すなわち、グローバル化時代における知識基盤型社会の構築という課題に応えるために社会

科の教科内容は、空間・時間上の存在様式の「認識」形成と同時に人格と公共善意の枠組のなかで実現される子どものよりよく生活する能力の育成を重視し、将来に向けての課題と理念・理想を見すえて生活実践・社会参加の形態を重視した「行為する」ことに焦点をすえた内容構成を重視すべきことを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計17件)

浅倉有子, 史料紹介「溝口家文書『高田城内御詰之面々御米請取帳』の紹介, 新潟史学, 75, 2017, pp. 93-107, 査読無.

畔上直樹, 戦前期村役場文書にみる無格社整理 - 新潟県欠代村・上郷村を事例に, 國學院大學研究開発推進センター編(責任編集/阪本是丸), 昭和前期の神道と社会, 弘文堂, 2016, pp. 463-486, 査読無.

茨木智志, なぜ、これを、このように教えているのか - 聖徳太子の教材を例として -, 教育創造, 178, 2014, pp. 44-49, 査読無.

茨木智志, 未発行に終わった3つの高校「世界史」指導資料に関する考察, 歴史教育史研究, 14, 2016, pp. 1-38, 査読無.

小島伸之, 近現代日本の「教育の中立性」, 比較憲法学研究, 26, 2014, pp. 81-107, 査読有.

志村喬・茨木智志・中平一義, 社会科教育における「思考力」の捉え方 - 国立教育政策研究所研究報告書「21世紀型能力」を緒に -, 上越教育大学研究紀要, 36(2), 2017, pp. 489-503, 査読無.

志村喬, PCK (Pedagogical Content Knowledge) 論の教科教育学的考察 - 社会科・地理教育の視座から -, 上越教育大学研究紀要, 37(1), 2017, pp. 139-148. 査読無.

志村喬・茨木智志・山本友和・大崎賢一, 社会科授業実践と教師の社会科専門性の実態分析研究 - 新潟県上越地方における調査からの知見 -, 上越社会研究, 29, 2014, pp. 31-40, 査読有.

リュバス・アレクサンドル, 下里俊行, 現代哲学の問題としての人間と社会: 教員養成課程における社会科内容構成論のための視座として, 上越教育大学研究紀要, 35, 2016, pp. 167-1179. 査読無.

下里俊行, 郷堀ヨゼフ, 社会科の内容構成のための「文化」概念の再考: M. フルコヴァー, T. チプトン, 石川誠「野良犬の眼を通して: 他者との出会い」の意義, 上越教育大学研究紀要, 36(1), 2016, pp. 125-139. 査読無.

下里俊行, 社会科の教科内容構成の体系化: 多元的実在論と価値論に立脚して, 日

本教科内容学会誌, 3(1), 2017, 3-20, 査読無.

中平一義, 子どもの思考を深める主権者教育研究 - 主権者としての多様な見方を培うシミュレーション・ゲームを事例にして -, 上越教育大学研究紀要, 37-1, 2017, pp. 149-162, 査読無.

中平一義, 法的安定性から実社会を認識する法教育授業開発研究 - 裁判に関する新聞記事や判決文から吟味する活動を通して -, 日本 NIE 学会誌, 12, 2017, pp. 11-20, 査読有.

矢部直人, GIS の普及と人文地理学, 佐藤廉也・宮澤仁編著, 現代人文地理学, 2018, 放送大学教育振興会, pp. 41-57, 査読無.

山縣耕太郎, 高田城下町と関川. 河川文化, 68, 2014, pp. 4-5, 査読無.

山縣耕太郎, 地理教育における自然の取り扱いと第四紀学の役割. 第四紀研究, 56(5), 2017, 187-194, 査読有.

渡辺吉和, 大場孝信, 山縣耕太郎, 長野県大町市に分布する木崎流紋岩中のパーサイトの成因について, 上越教育大学研究紀要, 37(1), 2017, pp. 183-192, 査読無.

[学会発表](計5件)

Takashi SHIMURA, Satoshi IBARAKI (志村喬・茨木智志) The present situation of and issues with the subject-matter expertise of Social Studies teachers in Japan: Focusing on the geographical aspect. by, NoFA5: Nordic conference on Subject Education (ノルディック教科教育学会): 2015年5月28日, University of Helsinki, Finland

矢部直人, 地理的加重2次元回帰による高田城下町絵図の分析, 日本地理学会2018年春季学術大会, 2018年3月22日, 東京学芸大学

山縣耕太郎, 高田城下町の形成と近世の水害. 東北地理学会秋季大会, 2014年10月11日, 山形大学, 山形市.

山縣耕太郎, 第四紀学と地理教育. 日本第四紀学会, 2016年9月18日, 千葉大学, 千葉市.

森康平, 山縣耕太郎, 塚本章宏, 井若和久, 避難行動の課題を踏まえた津波防災学習の提案. 日本地理学会, 2018年3月22日, 東京学芸大学, 東京.

[図書](計11件)

浅倉有子編, 矢部直人, 茨木智志, 山縣耕太郎, 志村喬ほか, ぶら高田, 北越出版, 2014, 48p.

浅倉有子, 畔上直樹, 茨木智志, 志村喬, 下里俊行, 中平一義, 橋本暁子, 山縣耕太郎, 吉田昌幸ほか, 「思考力」が育

つ教員養成 上越教育大学からの提言 3 ,
上越教育大学出版会, 2017, 276p.

浅倉有子, 茨木智志, 志村喬, 下里俊行,
中平一義, 橋本暁子, 吉田昌幸ほか, 「実
践力」が育つ教員養成 上越教育大学から
の提言 4 , 上越教育大学出版会, 2018,
246p.

茨木智志, 志村喬, 中平一義ほか, 「思考
力」を育てる 上越教育大学からの提言 1 ,
上越教育大学出版会, 2017, 439p.

茨木智志, 志村喬, 中平一義ほか, 「実
践力」を育てる 上越教育大学からの提言 2 ,
上越教育大学出版会, 2017, 391p.

Shimura T., Yamagata K. et al. *Geography
education in Japan*, Springer, 2015,
243p.

松田愼也, 畔上直樹, 小島伸之, 中平一義,
橋本暁子, 吉田昌幸, 矢部直人, 浅倉有子,
下里俊行, 山縣耕太郎, 志村喬, 茨木智志,
社会科教科内容構成学の探求 教科専門
からの発信, 風間書房, 2018, 300p.

Yamagata K., Haruyama S., Murooka M.,
Wang D. et al, *Environmental change and
the social response in the Amur River
basin*. Springer, 2014, Viii, 262p.

竹之内耕, 山縣耕太郎, ほか, 中部・近畿・
中国・四国のジオパーク(シリーズ台地の
公園), 古今書院, 2015, 156p.

山縣耕太郎, ほか, ナミビアを知るための
53章, 明石書店, 2016, 388p.

山縣耕太郎, ほか, アンデス自然学, 古今書
院, 2016, 228p.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松田 愼也 (MATSUDA SHINYA)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・特
任教授
研究者番号 : 70143336

(2) 研究分担者

畔上 直樹 (AZEGAMI NAOKI)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・教
授
研究者番号 : 20315740

小島 伸之 (KOJIMA NOBUYUKI)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・教
授
研究者番号 : 00449258

中平 一義 (NAKADAIIRA KAZUYOSHI)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・准
教授
研究者番号 : 50758597

橋本 暁子 (HASHIMOTO AKIKO)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・准
教授

研究者番号 : 10715642

吉田 昌幸 (YOSHIDA MASAYUKI)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・
准教授
研究者番号 : 90533513

矢部 直人 (YABE NAOTO)
首都大学東京・都市環境科学研究科・准
教授
研究者番号 : 10534068

山縣 耕太郎 (YAMAGATA KOTARO)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・
教授
研究者番号 : 80239855

浅倉 有子 (ASAKURA YUKO)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・
教授
研究者番号 : 70167881

下里 俊行 (SHIMOSATO TOSHIYUKI)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・
教授
研究者番号 : 80262393

志村 喬 (SHIMURA TAKASHI)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・
教授
研究者番号 : 70345544

茨木 智志 (IBARAKI SATOSHI)
上越教育大学・大学院学校教育研究科・
教授
研究者番号 : 30324023